



# 安川電機 (6506)

## 2009年3月期決算説明会：要約版 (2009年4月17日)

**取締役社長 利島 康司**

本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。

実際の業績等に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

# 事業セグメント別売上高構成比

## 当社製品活用事例

### 情報

【主要製品】  
コンピュータ周辺機器、レーザー応用システム  
情報処理ソフト・サービス

### システムエンジニアリング: (S)

【主要製品】  
鉄鋼プラント用電機システム  
上下水道用電気計装システム  
新システム機器等



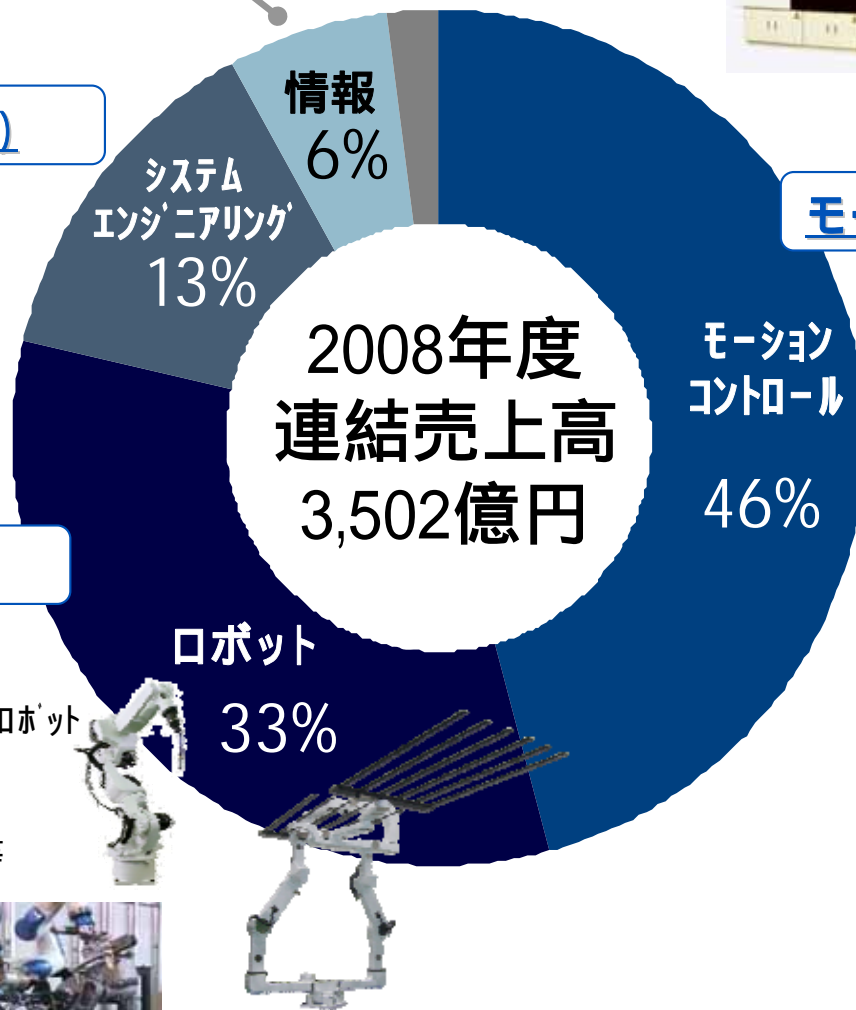
### ロボット: (R)

【主要製品】  
・産業用ロボット:  
アークスポット溶接・塗装ロボット、FPD搬送ロボット  
新世代ロボット  
・半導体製造装置用ロボット:  
半導体製造装置用クリーン・真空ロボット等

アーク溶接ロボット  
による自動車  
部品溶接



新世代ロボット  
によるロボット組立



【電子部品】  
チップマウント



【工作機械】  
タッピングマシン

### モーションコントロール: (M)

【主要製品】  
ACサーボモータ、コントローラ、リニアサーボ、インバータ等



## 当社製品活用事例

# 仕向先別売上高構成比

## アジア

【主要子会社】

- ・安川電機(上海)有限公司(中国)
- ・シンガポール安川電機(シンガポール)
- ・韓国安川電機(韓国)
- ・台湾安川開発科技股份有限公司(台湾)
- ・首鋼モトマン有限公司(中国)
- ・モトマンマザーソロボティクス(インド)

## 欧州

【主要子会社】

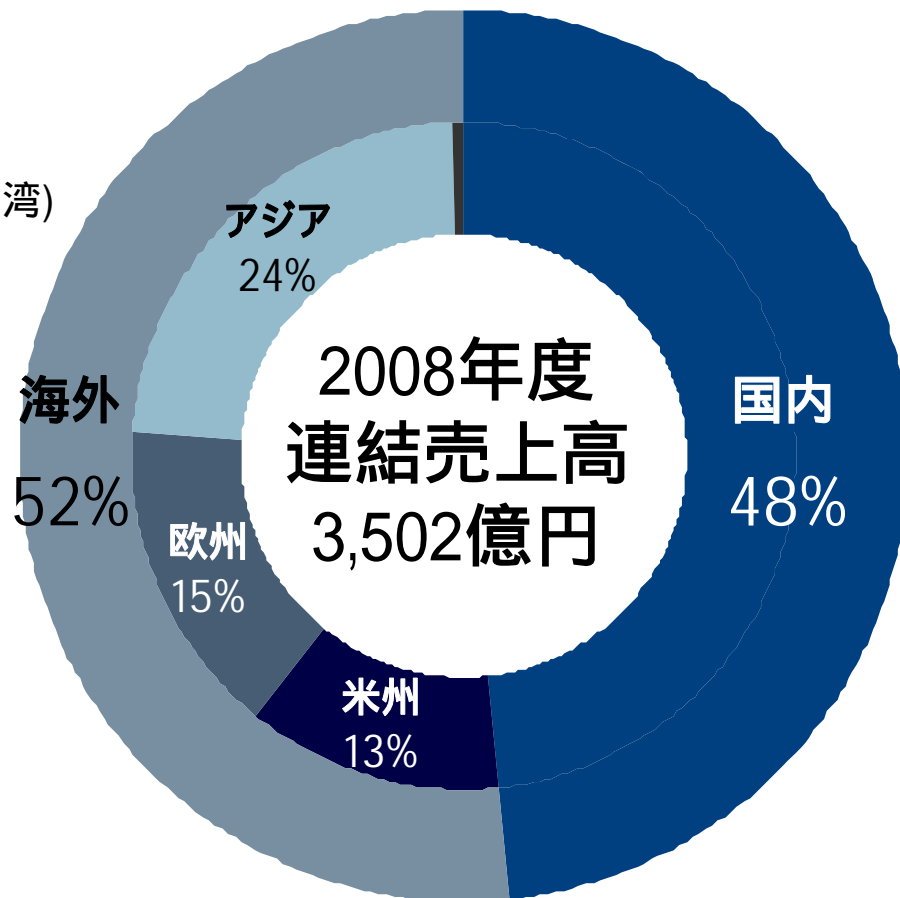
- ・欧州安川電機(ドイツ)
- ・モトマンロボティクスヨーロッパ(スウェーデン)
- ・モトマンロボテック(ドイツ)

## 米州

【主要子会社】

- ・米国安川電機(米国)
- ・モトマン(米国)

## アジアの増加により、海外売上が50%を超過



## 日本

【主要子会社】

- ・ワイ・イー・データ
- ・安川情報システム
- ・安川エンジニアリング
- ・安川コントロール
- ・安川モートル

# 2008年度連結決算のポイント

上期は堅調に推移したが、下期からの急激な受注減少  
円高の進行によるマイナス影響を強く受け減収減益

売上高	3,502億円	前期比	8.4%
営業利益	208億円	前期比	43.0% (営業利益率 5.9%)
経常利益	200億円	前期比	43.1% (経常利益率 5.7%)
当期純利益	68億円	前期比	65.9%

(M) インバータ: 上期好調も、下期受注減少を省エネ需要で支えきれず

ACサーボ: 上期後半から急激に受注が減速

(R) 自動車: 上期欧州向けが貢献するも、設備投資凍結・延期が大きく影響

液晶: 大型受注により増収となったが、下期は受注が減少

半導体: 設備投資抑制がさらに進行

(S) 鉄鋼向けが概ね堅調に推移、徹底したコスト管理が奏効し利益拡大

(情報) 利益構造の改善により増益を達成

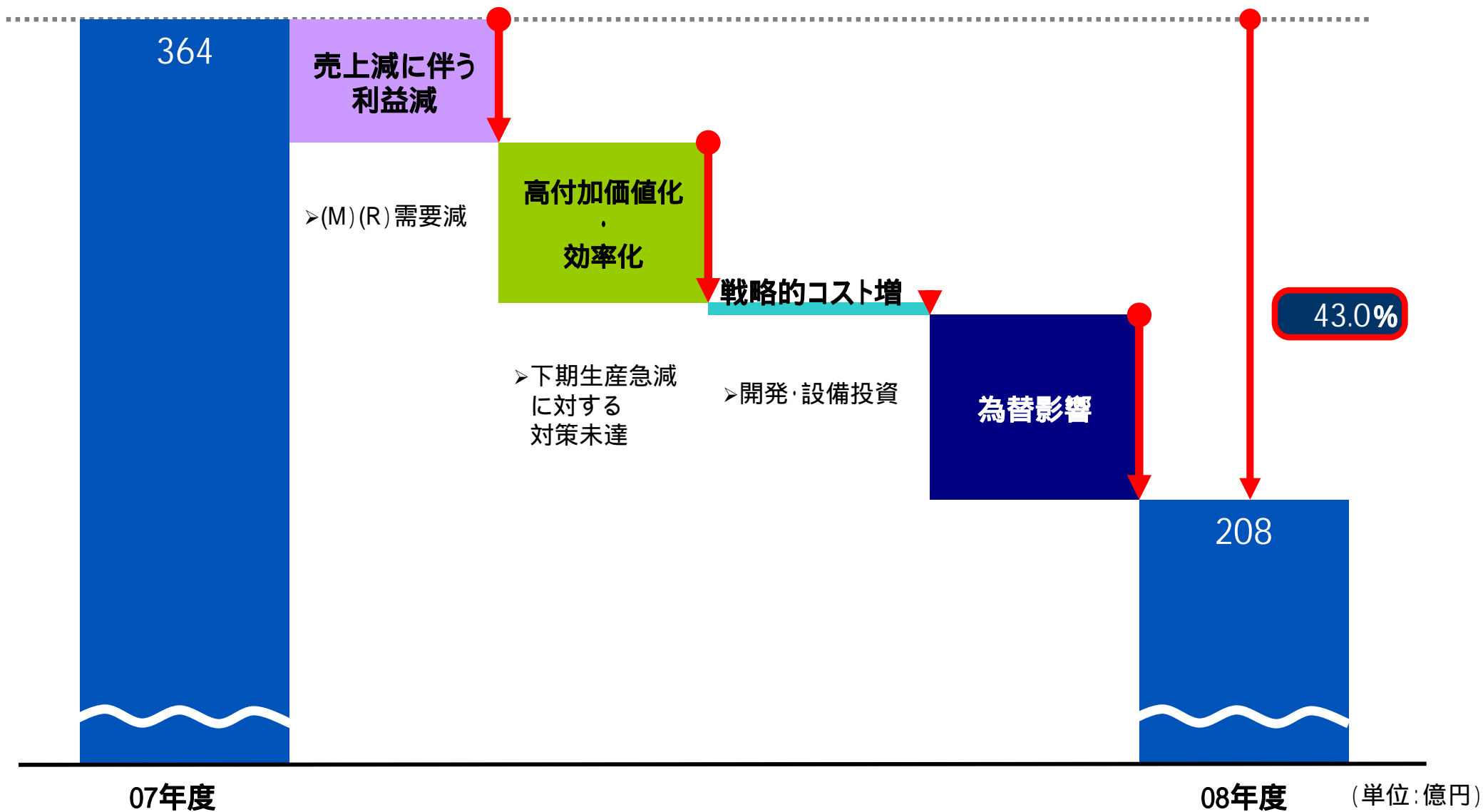
# 2008年度連結セグメント別業績

## (M)(R)の下期受注急減が影響

(単位:億円、%)

	08年度		07年度		前期比	
		利益率		利益率	増減額	増減率
売上高	3,502		3,823		321	8.4%
(M)	1,608		1,778		171	9.6%
(R)	1,141		1,235		94	7.6%
(S)	467		505		37	7.4%
(情報)	213		231		18	7.9%
営業利益	208	5.9%	364	9.5%	157	43.0%
(M)	117	7.3%	213	12.0%	96	45.0%
(R)	32	2.8%	85	6.9%	54	62.7%
(S)	46	9.9%	39	7.8%	+7	+17.7%
(情報)	6	2.9%	4	1.8%	+2	+46.4%
経常利益	200	5.7%	352	9.2%	152	43.1%
当期純利益	68	2.0%	202	5.3%	133	65.9%

# 営業利益増減要因分析(2007年度 2008年度)



# 2009年度連結業績見通しのポイント

市場の回復を睨み、新規市場の開拓および既存市場のシェア奪取により厳しい経営環境に打ち勝つ 下期は黒字

	通期	上期	下期
売上高	2,200億円	900億円	1,300億円
営業利益	80億円	100億円	20億円
経常利益	80億円	100億円	20億円
当期純利益	55億円	70億円	15億円

(M)インバータ:有望市場に向けて省エネ新商品を投入

ACサーボ:潜在ニーズを掘り起こし、需要の回復を逃さず拡販

(R)新興国、小型車の需要に対応、新世代ロボットの適用を拡大  
液晶需要拡大の可能性もあり

(S)堅調な鉄鋼、水処理の需要に対し、さらなる効率化で利益率を向上

(情報)市場、需要を開拓し、受注拡大を目指す

# 2009年度連結業績見通しのポイント

## 受注促進体制の強化

- トップ率先での市場開拓、顧客に対する事業部横断的な対応力で営業強化
- ・「営業統括本部」を新設(本部長は社長)

## 厳しい環境に打ち勝つ新商品の発掘

- 市場開拓、技術開発のスピードアップと顧客ニーズへのシステム対応力を強化
- ・「環境・エネルギー事業推進室」及び「サービスロボット事業化推進室」を新設

## R1000プロジェクトの推進強化

- 当社製ロボットの自社生産設備への導入拡大により、生産性向上を図るとともに、そのノウハウを顧客へソリューション提案
- ・「R1000推進室」を新設、専任担当を配置(従来はプロジェクトチームにて運営)

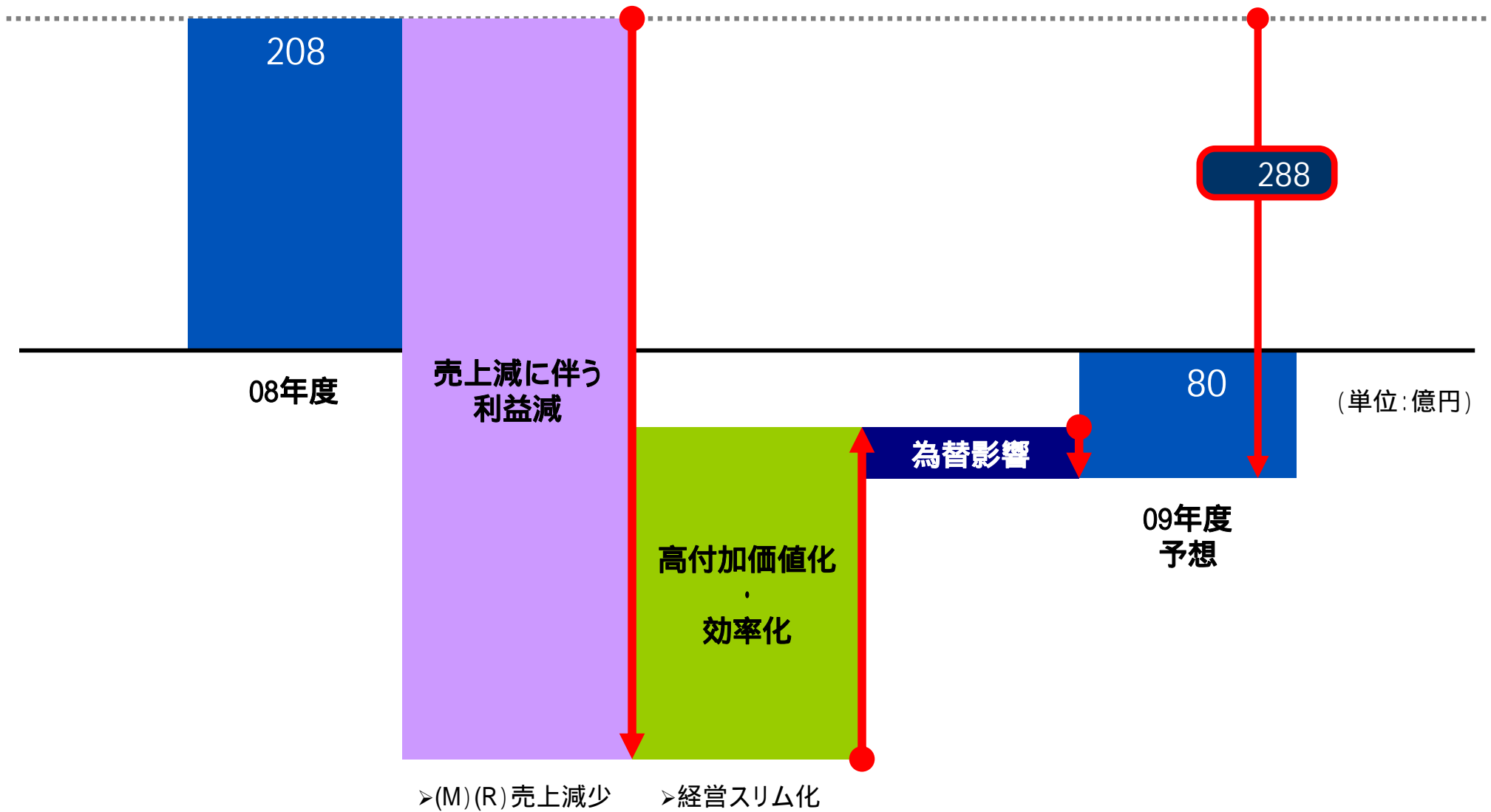
## 即効性のあるコスト低減の実施

- ・要員、経費を最少に抑え、経営のスリム化を実施
- ・全社的コストダウン体制を強化





# 営業利益増減要因分析(2008年度 2009年度予想)



# リスク要因

## 為替相場の変動

急激な円高の進展など、為替相場の動向によっては、当社業績に悪影響を及ぼす可能性がある。

(ご参考) 2008年度為替実績 1ドル = 101.5円 1ユーロ = 148.4円  
2009年度為替前提 1ドル = 90円 1ユーロ = 120円

## 市場環境

世界経済低迷の長期化による受注減少影響等に注意を要する。

## 原材料・部品価格の上昇

価格の変動が不安定であるため、高騰により利益を圧迫する恐れがある。